

第7章 ライブラリーセンター

7・1 図書・ライブラリーセンターの整備

1. 図書・学術資料などの整備

A群：図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他
教育研究上必要な資料の体系的整備とその量
的整備の適切性

本学の教育目標である「行動する技術者の育成」を支援するために、教室や実験室で得た知識をさらに深め、新たな知識を探究する「場」としてライブラリーセンター（以下、LC）を置いている。

LCの学術情報収集は、あらゆる工学系情報を体系的に収集・整理し、迅速かつ的確に提供することを目指しており、工学系専門分野における主題情報専門家による蔵書構成と収集を行うサブジェクトライブラリアン（SL）システムを導入している。SLは、各学系から選出された教員で構成されており、書籍・学術雑誌の選書をはじめ、学術情報の収集・提供などの情報面での支援を行っている。特に、講義参考書の収集・整理をはじめ、講義内容と連携したリザーブドブックの収集・整理と制度の推進など、大学院生や学生の教育・研究に直結した資料収集を担っている。さらに、各専門分野における学習・教育目的に応じた適正な情報を提供するために分野別選書を行っている。これがSL選書であり、各専門分野におけるLCの所蔵状況を把握・評価し、カリキュラムとの対応や基礎資料の充実などを図っている。

なお、LCで所蔵している図書、AVなどの資料の状況を表7・1に示す。

表7・1 図書・学術資料などの内訳（平成15年5月1日）

項 目		書誌（件）	所蔵（冊）
図書	単行本	315,163	377,378
	製本雑誌	4,748	85,109
	修士・博士論文	2,396	2,437
	卒業研究論文	22,972	22,990
	小 計	345,279	487,914
A V	ビデオ	6,728	12,409
	オーディオ	2,425	2,617
	レコード（PMC）	105,335	143,374
	ビデオ（放送大学教材）	10,398	10,698
	オーディオ（放送大学教材）	8,965	9,002
	その他のAV資料	610	616
	小 計	134,461	178,716
雑誌タイトル		6,641	—
マイクロ資料		9,057	9,067
未所蔵（J-MARC）		1,472,606	—
合 計		1,968,044	675,697

本学における所蔵雑誌については、学会誌・学術論文誌やコアジャーナルの見極めとともに、研究動向・ニーズ調査を行い、その結果に基づいて雑誌構成を構築している。近年、欧文学術雑誌の購読価格の高騰により、利用状況調査・研究動向分析による購読雑誌構成の精査が重要な検討課題となっている。

2. ライブラリーセンターの規模・整備状況

A群：図書館施設の規模、機器・備品の整備状況とその適切性、有効性

LCは48万冊の蔵書と1万4千巻を超える視聴覚資料（ビデオ）、180万件の書誌情報を持ち、工学系の専門図書館としては世界最大級の規模を誇っている。このLCは、利用者が「学ぶ楽しみ」を体験し親しみの持てる図書館であることを目標として、利用者サイドに立った自由な雰囲気の中で学習ができるように環境・設備やシステムを整えている。

図書資料は、総合フロア、研究・AVフロア、分野別フロア、書庫に分けて併架されており、5階から9階にある分野別フロアは、表7. 2に示すように、本学の学系と連動した構成で専門図書が置かれている。各フロアには、検索端末が設置され資料の有無を素早く調べることができる。

表7. 2 LCのフロア構成

階	フロア名	分 野 及 び 資 料
書庫	1～4層	製本雑誌、学位論文、卒業研究論文、 工学設計Ⅲプロジェクトレポート、和書、洋書 等
2F	総合フロア	基礎教養系（人文社会科学・自然科学）、科学史コーナー 教科書コーナー、文庫新書コーナー
4F	研究・AVフロア	理工学専門雑誌、学術雑誌
5F	分野別フロア	情報系、人間系（情報処理、計算機工学、経営管理工学）
6F	〃	電気系（電力、電子、通信工学）
7F	〃	機械系（工業化学、化学工学、資源・エネルギー工学）
8F	〃	材料系（力学・力学応用、建設工学、加工工学）
9F	〃	環境系、建築系（都市計画、デザイン）

総面積、閲覧スペースの面積、総閲覧座席数などは、表7. 3に示したように、十分なものになっている。

表7. 3 LCの面積など

総延面積 (㎡)	閲覧 スペース (㎡)	視聴覚 スペース (㎡)	情報端末 スペース (㎡)	書庫 (㎡)	その他 (㎡)	総閲覧 座席数 (席)
17,005	4,402	200	802	1,940	9,661	1,784

7. 2 利用上の配慮

A群：学生閲覧室の座席数、開館時間、図書館ネットワークの整備等、図書館利用者に対する利用上の配慮の状況とその有効性、適切性

1. 閲覧用座席数

閲覧用の座席は、LC内の各フロアに配置され、館内全体で1,784席であり、十分な数が備えられている。なお、フロア別の主要施設・設備と面積、閲覧座席数の詳細を表7.4に示した。

表7. 4 LCのフロア別主要施設・設備、面積、閲覧座席数

フロア	施設・設備名	スペース	閲覧 座席数	情報端末等
		(㎡)		
	インフォメーションカウンター／入館ゲート			
	開架書庫（1層、2層）	1154.48	42	
2階	レファレンスコーナー／学習支援デスク	125.64	44	自動貸出返却装置
	検索コーナー	95.85	18	検索用端末17台
	AV室	121.5	120	
	総合フロア（基礎教養）	756.22	165	
	ブラウジング／新聞コーナー	172.26	33	
	マルチメディア考房	875.59	137	
	開架書庫（3層、4層）	859.76	44	
3階	PMC（ホビージャーマンミュージックコレクション）	281.62	6	ホビージャーマンミュージック13台
	グループ学習室	235.96	112	
4階	研究・AVフロア／グループ閲覧室	296.07	49	検索用端末1台
5階	分野別／グループ閲覧室	296.07	117	検索用端末1台
6階	分野別／グループ閲覧室	296.07	117	検索用端末1台
7階	分野別／グループ閲覧室	296.07	116	検索用端末1台
8階	分野別／グループ閲覧室	296.07	116	検索用端末1台
9階	分野別／グループ閲覧室	296.07	116	検索用端末1台
10階	閲覧室／グループ閲覧室	296.07	216	
11階	閲覧室／グループ閲覧室	296.07	216	
12階	倉庫		0	
合計		7047.44	1,784	

2. 開館時間と開館日数

LCの開館時間と開館日数を表7.5に示した。授業開始前の8時30分に開館し、平日は22時、土・日・祝日は17時まで利用できる。ただし、学生休業中については変更している。

なお、定期試験中は、一週間前から終了までの間連日 22 時まで開館している。

開館日数は、年間で 335 日に達しており十分な利用体制を整えている。開館時間や日数を含め利用者サイドに立った環境の整備を行うことで夢考房キャンパスの実現を図っている。

表 7. 5 LC の開館時間と開館日数

曜 日	開館時間	開館日数
月～金曜日	8：30～22：00 学生休業中：8：30～17：00	193
土曜日	8：30～17：00 学生休業中：8：30～13：00	98
日曜日・祝日	10：00～17：00 学生休業中は一部休館日あり	44
年間開館日数		335

3. 図書の貸出と返却

利用者の利便性を高めるために、図書・学術雑誌などの書誌情報をデータベース化することによって、LC 内の情報検索端末だけではなく、学内外からインターネットを経由した検索システムの利用や、学生証（非接触型 IC カード）を用いた入館管理と自動貸出返却装置による図書の貸出・返却・継続貸出など、利用者自身が自由に行っている。

また、利用したい図書が貸出中の場合、返却後優先的に利用することのできる予約サービスがある。この予約サービスは、優先順位の高い利用者が優先順位の低い利用者に対して貸出資料の一時返却を要求できるリコールプライオリティ制（表 7. 6 参照）をとっており、学生（学部生）を最優先とした、図書貸出の制度となっている。

表 7. 6 リコールプライオリティ制の優先順位

利用者区分	貸出期間	優先順位
学部生（1・2・3 年次）	1 週間	1
学部生（4 年次）	2 週間	1
大学院生・専攻科生	1 ケ月	2
教職員	6 ケ月	3
卒業生	2 週間	4

学生がレポートを作成する時期などに、図書の貸出しが集中し必要な図書を閲覧できない状況が生じることを軽減するため、授業に関連する図書について、リザーブドブックとして複数冊購入し、専用のコーナーに所蔵する体制を設け、当該授業科目の履修学生の学習の便を図っている。なお、当該授業科目の履修学生以外への貸出しは、原則として認められていない。リザーブドブックの選定は、SL だけではなく、全教員に対して必要な図書と冊数の確認を依頼しており、その充実と適切な複本化を図っている。

また、館内中央にリクエストボックスを設置し、学生からの図書購入要求や要望を受け付けており、学生のニーズに応じています。今後さらに、Web上からの図書購入要求を受け、到着案内を電子メールなどで通知するシステムの開発に取り組んでいます。

4. サブジェクトライブラリアン（SL）制度

学生の教育・研究に対する支援のために、サブジェクトライブラリアン（SL）制度を設けている。各専門分野の教員がSLを担当し、蔵書類の構成企画やレファレンス業務、専門知識に基づいた資料調査のアドバイスなど、学生の学習相談や研究活動のサポートを行っている。

また、SLは、科目担当教員と連携し、館内のレファレンスカウンターの学習支援デスクにおいて、専門基礎科目についての個別指導などによる学習支援活動や、論文・レポートなどを作成する際の文章表現力の支援など、学習支援サービスも行っている。

7. 3 学術情報へのアクセス

B群：学術情報の処理・提供システムの整備 状況、国内外の他大学との協力の状況

LCは、所蔵している図書や資料ばかりではなく、広く世界にある情報を探することが可能なように、キャンパス内から表7. 7に示したような国内外の様々な外部データベースの検索サービスにアクセスできる体制を整えている。

他大学との協力関係としては、私立大学の約88%が加盟している私立大学図書館協会、石川県大学図書館協会に加盟し、図書の貸借や学術情報の交換などの連携を図っている。

また、現在、図書館の資料相互利用協定を、米国のマサチューセッツ工科大学、イリノイ大学アーバナシャンペイン校、ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館との間に締結している。

表7. 7に示した外部データベースのうち学生自身が自由にIDやパスワードを意識することなく利用できる「JOISEasy」「NACISIS-IR」「ScienceDirect」および全学生共通のパスワードで利用できる「KNOWLEDGE WORKER」は、学生・教職員の教育・研究活動の効果的な推進に役立っている。

なお、学術情報の収集について、「外部データベース利用講習会」をSLが担当して、毎年数回学生や教職員を対象として開催しており、利用の促進や利用方法の周知・徹底を図っている。

表 7. 7 LCでアクセス可能な外部データベース

データベース名	主な内容
J O I S Easy (科学技術振興事業団)	科学技術分野全般の文献情報と研究課題情報を提供
J O I S (科学技術振興事業団)	科学技術分野全般の文献情報と研究課題情報を広範囲に提供
S T N International (科学技術振興事業団)	日本、アメリカ、ドイツを繋ぎ科学技術全般を提供
日経テレコン21 (日本経済新聞社)	新聞・雑誌記事 (日本経済新聞、日経産業新聞、日経流通新聞、M J、日経金融新聞、専門誌、雑誌等) や企業情報を提供
NACSIS-IR (国立情報学研究所)	広範囲な分野の文献情報、学術情報を提供
DIALOG (ダイアログ社)	学術論文や人口統計データ、財務データ、新聞記事情報等対象主題が多岐にわたりさまざまな情報を提供
PATOLIS (パトリス社)	日本の特許・実用新案・意匠・商標および海外の特許関連情報の提供
G-Search (ジー・サーチ社)	企業、人物、新聞、雑誌、科学技術等の多彩な情報を提供
KNOWLEDGE WORKER (丸善)	世界の学術情報 (書籍・雑誌・電子ジャーナル) の提供および英国国立図書館が収集する世界主要雑誌の目次情報を提供
ScienceDirect (エルゼビア社)	1,700以上の学術雑誌の論文抄録データ、および本学購読雑誌の掲載論文フルテキスト情報を提供